

## 第7回計画部会以降の状況について

---

国土交通省北海道局

令和5年5月22日

令和4年度

(1月30日)

第7回計画部会

(2月22日)【諮問】  
国土交通大臣  
→国土審議会

(3月2日)【付託】  
国土審議会  
→北海道開発分科会

北海道における議論

(令和5年2月)  
道内各地域で「地方会議」を開催  
(令和5年1月～3月)  
地方公共団体、経済団体等と意見交換

(3月9日)

第26回 北海道開発分科会

計画部会による中間整理の報告

令和5年度

(5月22日)

第8回計画部会

○第9期北海道総合開発計画に関する計画部会報告(素案)について調査審議

(7月18日)

第9回計画部会

○第9期北海道総合開発計画に関する計画部会報告(案)について調査審議

(以下、今後調整)

第27回 北海道開発分科会

○第9期北海道総合開発計画に関する計画部会報告

パブリックコメントを実施

第28回 北海道開発分科会

○第9期北海道総合開発計画(案)について調査審議

閣議決定

(令和5年度内を目途に閣議決定予定)

国北総第76号  
令和5年2月22日

国土審議会長  
永野 毅 殿

国土交通大臣 斉藤 鉄夫  
(公印省略)

新たな北海道総合開発計画の策定について (諮問)

北海道開発法(昭和25年法律第126号)第4条第2項の規定に基づき、下記のとおり諮問いたします。

記

我が国及び北海道開発を取り巻く状況の急速かつ大きな変化を踏まえ、北海道の優れた資源・特性を活かし、我が国の課題解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図るための、新たな北海道総合開発計画の策定について

国国土審第50号  
令和5年3月2日

国土審議会北海道開発分科会長  
石田 東生 殿

国土審議会長  
永野 毅  
(公印省略)

新たな北海道総合開発計画の策定について (付託)

令和5年2月22日付国北総第76号にて国土交通大臣より当審議会に諮問された新たな北海道総合開発計画の策定について、国土審議会運営規則(平成13年3月15日国土審議会決定)第7条第1項の規定に基づき、貴分科会に付託する。

# 国土審議会第26回北海道開発分科会 における主な意見

## ●国土審議会第26回北海道開発分科会

日時：令和5年3月9日（木） 10:00～12:00

会議形式：WEB会議

### 計画全般

- この計画は、国として、閣議によって決定する計画であり、従ってその視点も、北海道が如何に我が国全体に貢献していくかにあると理解。北海道の新しい未来を作る計画をともに作りたい。
- 「リアルとデジタルのハイブリッド」は北海道に非常にマッチしたものである。北海道が持つポテンシャルが発揮されるような計画が策定されることを期待している。
- 北海道もコロナで様々なダメージを受けたが、高まる食料安全保障や世界中にファンがいる観光の魅力を最大限に発揮して、北海道の魅力が多くの人に伝わる計画にしてほしい。
- リアルを支える人を北海道に連れてくる、或いは北海道から人を出さないためには仕事と教育が重要。その両方をオンラインで実施することによってリアルの良い人材、様々な産業を支える人材が充実していくということを打ち出してほしい。
- 北海道のポテンシャルや価値を、どう維持して、どう活かしていくのかを念頭におき、更に実効性のある計画にすべきであり、計画完成後は、具体的にどのように推進していくかが重要。

### 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

- 食料安全保障について、自給率だけでなくブランド力といった付加価値を更に高め、輸出を含めたマーケットの広がりも捉えながら食の高度化を図る必要がある。
- GIの活用等によるグローバル市場の獲得については良いことだと思う。自然環境や文化的景観はテロワールとも言われているが、このようなメリットも食文化を考える上で重要。

## 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

- 食を生み出す自然環境や農業のような人の活動と自然が織りなす文化的景観を背景に、優れた食材が生まれ、そこに住む人たちが手をかけて、より付加価値を高めていくという関連性がある。文化、自然、環境の価値の保全、保護を行い、活用することによって新しい価値を創造・育成するサイクルが大事である。

## 地球温暖化対策を先導する活力あるゼロカーボン北海道の実現

- 新たな北海道総合開発計画において、食・観光に脱炭素化が新たな価値として加わったことは重要な視点。国を挙げて2050年カーボンニュートラルに向けた取組が進む中で、脱炭素化で北海道が国の課題解決に貢献できる。再生可能エネルギーによる電力を道内外に安定供給できるよう、北本連系など送電網の強化に取り組むことが重要。
- 北海道は再生可能エネルギーのポテンシャルが高いが、観光ポテンシャルの高い所で再エネ事業が実施される可能性がある。再生可能エネルギーの導入に当たっては、自然環境や観光資源としての景観を壊さず調和して進めることが大事。
- 「ゼロカーボン北海道」の取組が「骨太の方針」に明記されているが、脱炭素と経済・社会の活性化の好循環に向けては、北海道が中心的な役割を果たしていかなければならない。

## 地域の強みを活かした成長産業の形成

- 半導体メーカーのラピダスが、工場の建設予定地として千歳市を選定するとの発表があった。最先端半導体の中心地的な拠点整備が円滑に進められるよう、国、道、地元自治体が密接に連携する必要がある。このような北海道開発に大きく関連する動向についても、計画に取り込んでいただきたい。

## 自然共生社会・循環型社会の形成

- 遊水地もグリーンインフラ。流域治水におけるグリーンインフラを活用しながら、有事の時は洪水を受け止めて安全安心な国土形成、平時はタンチョウが飛んできてインバウンド産業を盛り上げ、地域の自然環境が良くなり、住みやすい場所が作られるといった方向性を強く入れていただきたい。

## 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興

- 北方領土隣接地域については、領土返還の拠点となる重要な地域であり、安定振興が図られていることが重要。
- 北海道はロシアと隣接しているので、国防の観点からも懸念している。国土の北縁で守るという意識を強く表現してはどうか。

## アイヌ文化の振興等

- アイヌ文化のさらなる発展、新しいアートフォームとして、次の伝承すべき文化財になるような活動が展開され、ウポポイを中心に、様々な地域や人との連携拠点になってほしい。

## 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

- 北海道新幹線について、他の整備新幹線と異なり、県庁所在地と繋がって終わりではなく、北海道全体がすぐに繋がる訳ではない。整備した効果を最大限発揮することが重要である。
- 日本の食料基地である北海道は、全国各地に北海道産農畜産物を供給し続けなければならない。広大な北海道では、トラック・鉄道・船舶など、どの輸送手段が欠けても物流システムは維持できない。生産現場では将来的な北海道の鉄道体制に不安を抱えている。

# 新たな北海道総合開発計画を考える地方会議、 地域との意見交換の概要



## 概要

新たな北海道総合開発計画策定に向けた中間整理（案）について、地域で活躍する多様な方々との意見交換「新たな北海道総合開発計画を考える地方会議」や、北海道内の地方公共団体及び経済団体の長と北海道開発局及び開発建設部が面談による「地域との意見交換」を行い、多数のご意見をいただいた。

## ●新たな北海道総合開発計画を考える地方会議

- ・ 開催時期 令和5年2月
- ・ 地方会議 北海道内10地域で開催  
（札幌、函館、小樽、旭川、室蘭、釧路、帯広、網走、留萌、稚内）



（地方会議の様子）

## ●地域との意見交換

- ・ 実施時期 令和5年1月～3月
- ・ 意見交換 北海道内の地方公共団体178市町村、経済団体78団体

## 計画全般

- 理念の共有化を図るためのキャッチフレーズ的なものはないのか。また、北海道として「このようにやっていくのだ」という誰もがわかるようなものを明確に打ち出していきたい。
- この資料を見て硬いなと思った。もう少し柔らかく伝えられるようにしたほうが良いと思う。
- インフラ関係者と教育関係者がともに学ぶ場の充実が必要である。関係者の対話の機会の確保や、情報共有の推進という趣旨の記述を追加するとよい。
- 地元の子どもたちに自分たちの町を知ってもらって、町の産業に関心を持ってもらうというような教育的な側面も必要になってくる。幼少期から地域づくりの大切さを伝えるのは重要である。学習の中で、北海道の子どもたちに北海道をより好きになってもらうことがすごく大事である。

## 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

- 日高の中心産業である軽種馬産業がどこに位置付けられているのかわかりづらい。
- 自生する野草や酪農家の個性を活かした多様な取組を広めたい。
- 農地集積を再びしなければいけないという問題について、効率化されるからすべきだという話がある一方、大区画化だけでなくさらに新しい技術などでうまくやっていけるのではないかという意見もある。条件のいいエリアと、これまでのやり方でやるエリアとの住み分けをしても良い。
- 農林水産物の輸出促進についてあまり触れられていないように感じる。
- 食料安全保障的には農地を確保することが重要であり、離農などで耕作地を放棄して荒地になるようなことを防いで、しっかりと耕作を維持できるような地域づくりをすることが基本。
- 地域内の癒やしの景観保持については、多面的機能を活用しながら雑木を除去したり、道路や法面の草刈りをしたりしながら、美しい農村景観を保てるようにしている。農業には経済活動にプラスして、土砂を流出させない防災、景観という面では観光にも寄与している。
- 一昨年には赤潮の被害があった。漁業者にとってはすごく影響の出る問題。
- 若手の農家は、自分たちで商品開発して販売までやろうと取り組んでいる。地域の素晴らしさを感じてもらえるようブランディングする人が増えるといい。
- 農山漁村の振興で重点的に取り組む施策について、住宅政策など、より具体的に記載すべき。

## 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

- ユニバーサルツーリズムの推進との記載があるが、「アクセシビリティ」を用いた方が多様性という意味合いにより幅広く捉えることができる。
- 観光コンテンツの創出の取組として、北海道遺産の活用、ジオツーリズムの推進、温泉資源等に触れてはいかがか。

## 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

- 北海道ではCCS大規模実証実験が行われ、現在モニタリングを実施中である。国内で唯一の実証試験地が北海道にあるという価値を、本案において強調していただきたい。
- 再生可能エネルギー以外の石炭等の未利用資源がある。多様な手法による炭素固定・利活用やCCUS等追加願いたい。

## 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

- 予防保全型のインフラメンテナンスについては一切言及がされていなかった。生産空間を守る、観光に資するという意味でも特に予防保全型のインフラメンテナンスは必要。
- デジタル化を推進しているが、それらの重要性はまだまだ高くなる。5Gエリアが拡大すれば、建設業界では、3次元、インターネット、デジタル化をコラボレーションすることによって、人のいない部分の補填ができる。

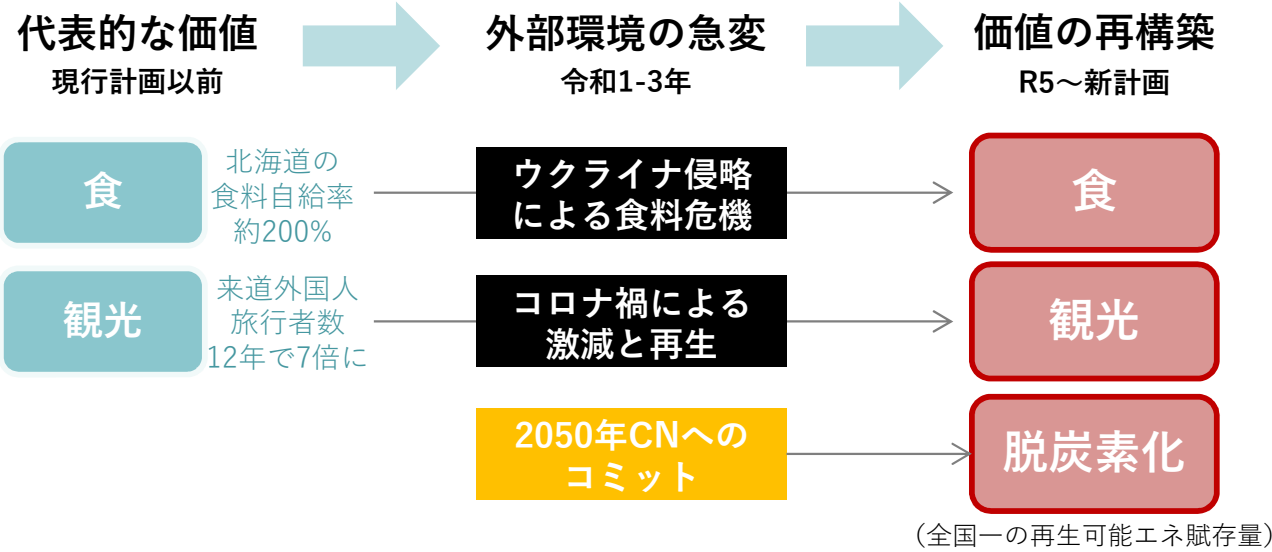
## 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興

- ビザなし訪問や墓参が無くなるとメディアに出る機会が少なくなり、全国民の思いが希薄化することを一番懸念している。そのため、折に触れて北方領土問題を表に出すことが必要だと考えている。北方領土返還運動と隣接地域の地域振興への決意をきちんと入れてほしい。
- 北方領土の早期返還を進めてほしい。また、返還されないことによる隣接地域の疲弊があるので、この地域の振興についてはしっかりと計画に盛り込み、強く進めてほしい。
- 国境周辺地域の「安全」・「定住」とまとめているが、もっと強い表現にできないか。食料安全保障や燃料高騰リスクは表現されているが、国防上の安全保障を書いても良いのでは。
- 道北地方は、ロシアと国境が近く、特に、利尻礼文が一番先に危機が迫ってくると考える。防衛対策も十分御配慮いただきたい。
- 道北地方は、高規格道路は繋がっていないが、港、空港、JRがあり、利尻礼文との繋がり、サハリンとの繋がりなど他には無い特別な地域。先人達が創ったこの地域をなんとか維持・発展させたい。国境周辺地域として、以前はサハリン交流を積極的に進めていたが、国境に人が住まなければならないので、人口減少の激しい離島も含め、何でも良いのでこの地域のプレゼンスを高める必要がある。

# 第9期北海道総合開発計画のポイント

# 第9期北海道総合開発計画のポイント

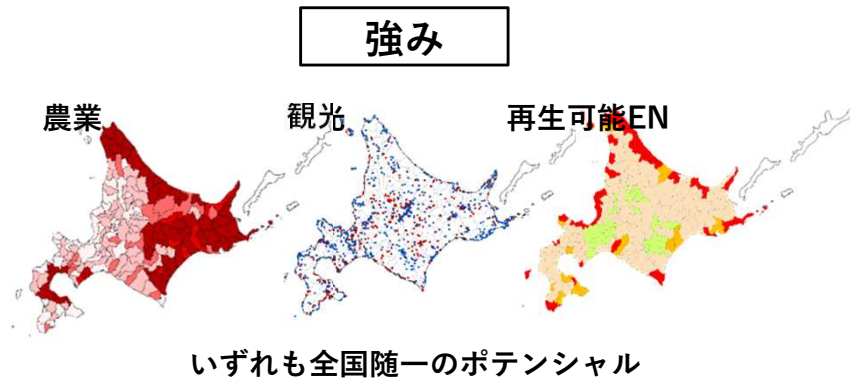
1. 「他で代替できない  
北海道の価値」  
を考える視点  
価値の再構築



目標1  
我が国の豊かな暮らしを支える北海道

- ・食料安全保障
- ・観光立国
- ・ゼロカーボン北海道

2. 「価値を生む空間」  
を考える視点  
生産空間の維持



**課題**

「特殊な地域構造」  
「厳しい自然環境」  
の条件下における  
定住環境の維持

目標2  
北海道の価値を生む北海道型地域構造の維持

- ・生産空間の維持・発展
- ・強靱な国土づくり

3. 「価値の最大化」  
を考える視点  
例) 相互のNW化とデジタルによる補完

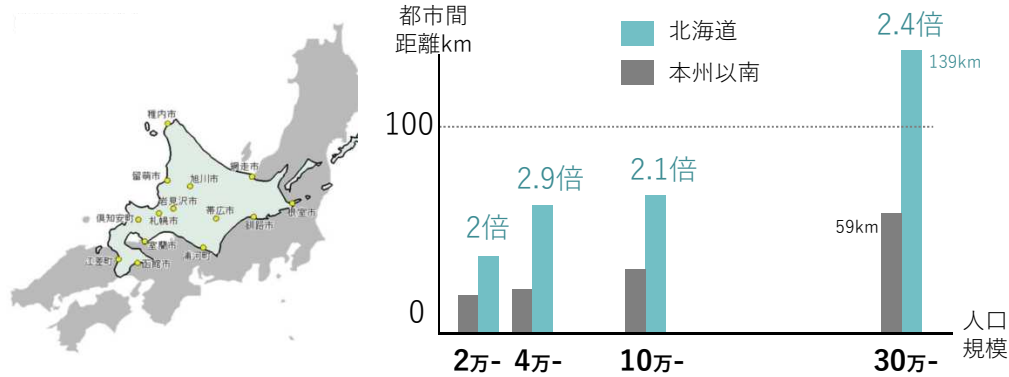
生産空間で価値を創出するリアルの維持  
×  
地方部の弱点を克服するデジタル技術  
||  
3つの価値の最大化



# (参考) 国土計画的視点から見る北海道の地域構造

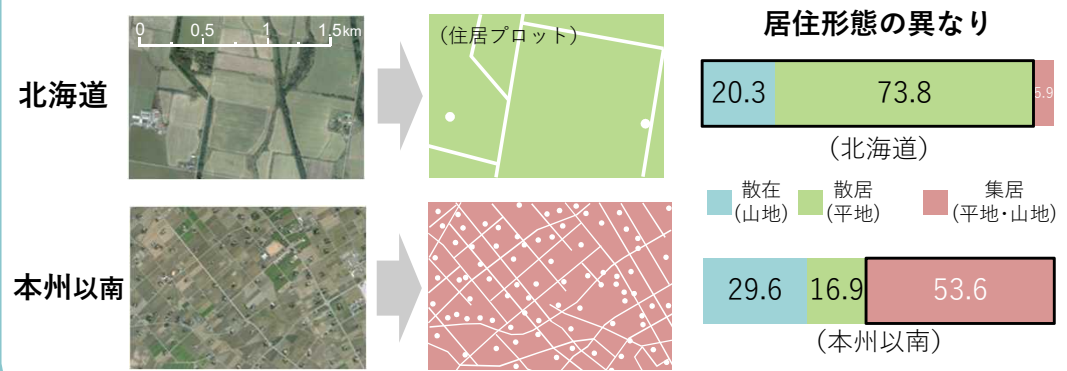
## マクロ (都市間)

最寄都市間距離は本州以南の2～3倍



## ミクロ (集落内)

集落内住居は散在・散居形態が9割

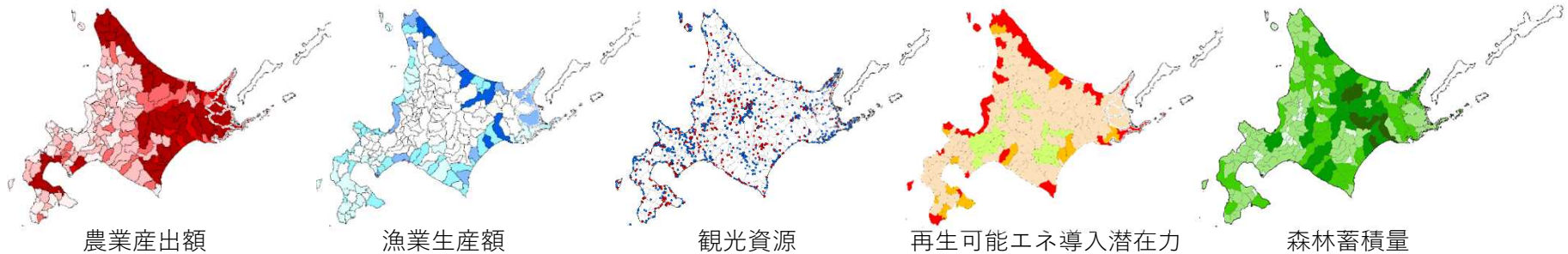


### 北海道の地域構造 「二重の疎」

国土形成計画の方向性を基礎としつつ、北海道の特殊な地域構造を踏まえた計画検討

一方、日本を支える「食・観光・再生可能エネ」は、「二重の疎」の域に広く賦存

(「生み出す力」に着目して「生産空間」と定義)



人口減少による「生産空間」の空白化を抑え、価値を最大化して、現下の我が国の課題を解決

# 中間整理からの変更点

## 主な変更のポイント

- ・ 国土審議会第26回北海道開発分科会におけるご意見を踏まえた変更
- ・ 新たな北海道総合開発計画を考える地方会議のご意見を踏まえた変更
- ・ 地域との意見交換におけるご意見を踏まえた変更



# 中間整理からの変更点①

項目	中間整理	今回
体裁	箇条書き形式	文章形式
計画本文の名称	新たな北海道総合開発計画	<a href="#">第9期</a> 北海道総合開発計画
本文の冒頭	—	<a href="#">「第9期北海道総合開発計画の策定にあたって」</a> を追加（まえがきの追加）
目標（順序、名称の変更）	我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、脱炭素化、観光立国等を先導	我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、 <a href="#">観光立国</a> 、 <a href="#">ゼロカーボン北海道</a>
主要施策の名称	世界トップクラスの観光地の形成	<a href="#">観光立国を先導する</a> 世界トップクラスの <a href="#">観光地域づくり</a>
	地球温暖化を先導する活力ある脱炭素社会の実現	地球温暖化対策を先導する <a href="#">ゼロカーボン北海道</a> の実現
	地域の強みを活かした産業の育成	地域の強みを活かした <a href="#">成長産業の形成</a>
	豊かな自然と共生する持続可能な社会の形成	<a href="#">自然共生社会・循環型</a> 社会の形成
	北方領土隣接地域等の振興	北方領土隣接地域 <a href="#">及び国境周辺地域</a> の振興

# 中間整理からの変更点②

項目	中間整理	今回
第2章第3節 1. 国の課題解決のために果たす役割	⑥競争力のある産業を育成し我が国の経済成長に貢献する —	⑥競争力のある産業を育成し我が国の経済成長に貢献する <u>感染症によって打撃を受けた観光地・観光産業の再生を図る役割</u> があることについて追記
第3章 計画推進の基本方針		
第3節 計画の進め方 1. 「リアル」と「デジタル」のハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成	—	デジタル技術の活用によって、 <u>様々な産業を支える人材の育成・確保が可能</u> となる趣旨を追記
(1) 官民の垣根を超えた「共創」	—	<u>北海道の魅力や可能性について、未来を担うこども達に伝える取組推進</u> について追記
(2) 社会変革の鍵となるDX・GXの推進	—	<u>GX実現に向けた成長産業分野に対する投資を促進するための産学官金連携</u> について追記
(3) フロンティア精神の再発揮	—	<u>デジタルコンテンツなどの先端技術を活用した北海道発の新しい価値、付加価値を創造する人材の育成・起用</u> について追記
(4) 戦略的な社会資本整備	戦略的な社会資本整備	戦略的・ <u>計画的</u> な社会資本整備

# 中間整理からの変更点③

項目	中間整理	今回
第4章 主要施策 第1節 1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展		
(1) 我が国を先導する農林水産業の生産力強化	—	<u>稲作、畑作、野菜、果樹、花き、酪農、肉用牛、軽種馬、中小家畜など、多様な農業が展開されている北海道の特色を趣旨に追記</u>
	高効率・高品質生産を可能とする農業生産基盤及びデジタル基盤の整備	<重点的に取り組む施策>に追記 <u>地域特性に応じた高効率・高品質生産を可能とする農業生産基盤及びデジタル基盤の整備</u>
	—	<重点的に取り組む施策>に追加 <u>担い手への農地集積・集約化の加速化と優良農地の確保</u>
	—	2021年に北海道太平洋沿岸沖で発生した <u>赤潮被害</u> について趣旨に追記
(2) 国内外のマーケットに対応したバリューチェーンの構築	グローバル市場の獲得	<重点的に取り組む施策>に追記 グローバル市場の獲得による <u>農林水産物・食品の輸出拡大</u>

# 中間整理からの変更点④

項目	中間整理	今回
(4) 農林水産業の持続性を支える農山漁村の振興	—	<p>＜重点的に取り組む施策＞に追加  <a href="#">地域の風土や特色ある農林水産物・食品を活かしたブランド力の強化</a></p>
	—	<p>＜重点的に取り組む施策＞に追加  <a href="#">関係人口の創出拡大や地域づくりを担う人材の育成・確保</a></p>
	—	<p>＜重点的に取り組む施策＞に追加  <a href="#">住居、情報基盤等の確保による定住条件の整備</a></p>
	農山漁村の文化の保全・継承	<p>＜重点的に取り組む施策＞に追記            農山漁村の<a href="#">自然環境・景観</a>・文化の保全・継承</p>
	—	<p>＜重点的に取り組む施策＞に追加  <a href="#">農林水産業・農山漁村の有する多面的機能の維持・発揮</a></p>

# 中間整理からの変更点⑤

項目	中間整理	今回
2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり		
(1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上	—	<u>雇用の安定など持続可能な観光産業の実現、高付加価値化による「稼ぐ力」の向上、従業員の待遇改善、更なるサービス向上といった好循環に繋げる必要性について趣旨に追記</u>
	—	<u>自然や歴史文化を掘り起こし、コンテンツ化するとともに、相互に連携させることの重要性について趣旨に追記</u>
(2) 多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備	—	<u>観光地の多様性の向上という意味合いから観光地のアクセシビリティの向上について趣旨に追記</u>
(3) 自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり	—	<u>自然景観、豊富な温泉、ジオパークなど自然環境や文化的資源を活かした観光ニーズについて趣旨に追記</u>
	—	<u>観光に関わる人材育成・確保、地域の価値の保存、次世代に受け継ぐことについて趣旨に追記</u>
	北海道が世界に誇る北の縄文遺跡等の保全・継承による観光地域づくり	北海道が世界に誇る文化資源の保全・継承による地域資源を活用した観光地域づくり
	道内各地の遺跡等の地域資源を活用した観光地域づくり	<p>&lt;重点的に取り組む施策&gt;に追記</p> <u>北の縄文遺跡を始めとする道内各地の遺跡やジオパーク、炭鉄港などの日本遺産、北海道の馬文化などの北海道遺産等</u> を活用した観光地域づくり

# 中間整理からの変更点⑥

項目	中間整理	今回
3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現		
(1) 北海道の地域特性を活かした持続可能な脱炭素社会の形成	—	<a href="#">再生可能エネルギー導入に当たって、景観や環境への影響等に対する懸念や課題、導入に当たって留意することについて趣旨に追記</a>
	—	<a href="#">＜重点的に取り組む施策＞に追加 脱炭素化に配慮した石炭活用の技術開発促進</a>
(3) 北海道のCO <sub>2</sub> 吸収力の発揮	農地及び草地土壌への堆肥や緑肥等の施用、CCS、建築物の木造化等による炭素貯留の促進	<a href="#">＜重点的に取り組む施策＞追加並びに記載の整理 ・農地及び草地土壌への堆肥や緑肥等の施用 ・建築物の木造化等の促進 ・<u>CCUS、合成燃料など新しい脱炭素技術の開発促進</u></a>
4. 地域の強みを活かした成長産業の形成		
	—	<a href="#">＜主要施策の実現に向けた施策の基本的方向＞に、デジタル社会を支える重要基盤である半導体産業について追加 <u>(2) 経済安全保障に貢献する先端産業拠点の形成</u></a>
(3) 地理的・気候的な優位性を活かした産業振興	—	<a href="#">＜重点的に取り組む施策＞に追加 新しい産業を担う人材確保に資する環境整備</a>

# 中間整理からの変更点⑦

項目	中間整理	今回
5. 自然共生社会・循環型社会の形成		
(1) 北海道の特性を活かした自然共生社会の形成	—	<p>＜重点的に取り組む施策＞に追加  <a href="#">遊水地等を活用した生態系ネットワークの形成</a></p>
	—	<p>＜重点的に取り組む施策＞に追記            生物多様性の減少傾向を食い止め、回復に向かわせる  <a href="#">「ネイチャーポジティブ」</a>の考え方を追記</p>
(2) 資源を最大限に利活用する循環型社会の形成	—	<p>＜重点的に取り組む施策＞に追加  <a href="#">建設発生土等の有効利用の促進及び普及啓発</a></p> <p><a href="#">建設副産物における付加価値の高い再生材へのリサイクル促進など建設リサイクルの「質」の向上</a></p>
6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興		
(1) 北方領土隣接地域の安定振興	—	<p><a href="#">北方領土の早期返還に向けた環境整備</a>について項目を整理</p>
(2) 国境周辺地域の振興	—	<p>国境周辺地域の振興において、<a href="#">緊迫化する国際情勢において、我が国を取り巻く安全保障上の課題が深刻化する中、経済安全保障上の観点からの社会経済活動を支えるインフラ整備の必要性</a>について趣旨に追記</p>
	—	<p>＜重点的に取り組む施策＞に追加  <a href="#">道路・港湾等の広域ネットワークの強靱化</a></p>

# 中間整理からの変更点⑧

項目	中間整理	今回
第4章 主要施策 第2節 2. 多様で豊かな地域社会の形成		
(3) 生産空間の暮らしを支える中心市街地の形成と賑わいの場	中心市街地等への医療、福祉、商業等の機能集積による雇用創出	<重点的に取り組む施策>に追記 中心市街地等への医療、福祉、商業等の <a href="#">都市機能・生活機能の集積・高度化</a>
	—	<重点的に取り組む施策>に追加 <a href="#">地方部における「道の駅」等への日常的な生活サービス機能の集約・拠点形成</a>
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成		
(4) 札幌における交通結節機能と都市機能の強化	—	<a href="#">札幌都市圏の機能、北海道の発展のための不可欠な機能について趣旨に追記</a>
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり		
(4) デジタル技術を活用したインフラの維持管理及び技術開発の推進	—	建設業の担い手不足により、 <a href="#">災害時における応急復旧活動にも支障が生じる</a> ことについて趣旨に追記
	AI・IoT等の新技術の活用等による戦略的なインフラ老朽化対策や人材育成、技術支援	<重点的に取り組む施策>に追記 AI・IoT等の新技術の活用や <a href="#">広域的・戦略的なインフラマネジメントによる予防保全型メンテナンスへの本格転換、人材育成・担い手確保、技術支援</a>
	i-Snow, SMART-Grass等の現場の生産性、安全性の向上	<重点的に取り組む施策>に追記 i-Snow, SMART-Grass等の <a href="#">インフラ分野のDX化による現場の生産性、安全性の向上</a>



# 中間整理からの変更点⑨

項目	中間整理	今回
付記（追加）	—	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>施策の推進に当たっては、内外の諸情勢の変化に対して弾力的に対処していくものとする。</u></li><li>・ <u>特殊な条件下に置かれている北方領土をめぐる状況が変化した場合には、開発の基本方向を改めて示すこととする。</u></li></ul>